

## 平成 31 年度入学者選抜学力検査問題

# 国 語

### 注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて7ページです。  
また、別に解答用紙が、(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。  
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を解答欄の( )の中に書き入れなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

次の1から3までの問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 英文を和訳する。 (2) 労力を費やす。  
 (3) 傾斜のゆるやかな坂。 (4) 参加人数を把握する。  
 (5) 卒業式の激かな雰囲気。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 海でオヨク。 (2) うさをシイクする。  
 (3) 手紙がトドク。 (4) 会場のケイビをする。  
 (5) フクザツな思考。

3 次はAからCを話題にして先生と生徒が会話をしている場面である。それらを読んで、(1)から(5)までの問いに答えなさい。

|   |                            |   |           |                         |     |
|---|----------------------------|---|-----------|-------------------------|-----|
| A | 今年より                       | ① | 知りそむる桜花   | 散るといふことはならはざらなむ         | 紀貫之 |
| B | 夏の花みな水晶にならむとすかはたれ時の夕立の中    | ② | 与謝野晶子     |                         |     |
| C | 花開 不 <small>トモニ</small> 同賞 |   | 花 落       | 不 <small>トモニ</small> 同悲 |     |
|   | 欲 <small>ス</small> 問 相 思 處 |   | 花 開 花 落 時 |                         | 薛 濤 |

生徒 「先生、三つの作品を選んできました。」  
 先生 「どうしてこれらを選んだのですか。」

生徒 「私は花が好きで、どれも花を詠よんでいるものだ④からです。」

先生 「なるほど。花は、今も昔も多くの歌人によって詠よまれている素材ですよ。」

生徒 「そうなのですね。Cは以前、先生から(5)本で見つけたのですが、どのような内容の漢詩ですか。」

先生 「これは、大切な人と花が咲く喜びや散る悲しみを共有できない切なさを詠よんだ漢詩です。花に心を動かされて歌を詠よむのは、時代や国が違っても同じですよ。」

(1) ① に入る語として最も適切なものはどれか。

- ア 春      イ 夏      ウ 秋      エ 冬

(2) ② かはたれ時の夕立の中 の部分に用いられている表現技法はどれか。

- ア 擬人法      イ 反復法      ウ 直喩      エ 体言止め

(3) ③ 不トモニ同悲 の書き下し文として正しいものはどれか。

- ア 同じに悲しま      イ 同じに悲しまず  
 ウ 悲しまず同じ      エ 悲しま同じに

(4) ④ だ と文法的に同じ意味・用法のものはどれか。

- ア 明日は雨が降るそうだ。      イ 朝の商店街は静かだ。  
 ウ 友人と会話を楽しんだ。      エ これは弟の自転車だ。

(5) (5) に入る正しい敬語表現はどれか。

- ア お借りになられた      イ お借りになった  
 ウ お借りした      エ お借りいただいた

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

(注1) 異朝に負局といふ仙人ありき。この仙人は希代の術どもほどこして、人の喜ぶことを、もっぱらに好めり。あるとき、天下の人民、疾病にかされて、あるひは死し、あるひは苦しむこと、おしなべて見えたり。医工をほどこすといへども、しるしをえず。ただたのむかたは、天道に心を入れて、おのおの祈誓申すばかりなり。かく万民の嘆き悲しびけるを、負局こそ、深くあはれに思ひ、深谷へゆいて、岩のはさまにしたたる水を、八功德水なればとて、心のままに湧きいだしけり。その水の色は、いかにも鮮やかにして白し。この功德水をくみて、瓢箪に入れ、杖にかけて、国々をめぐりて、疾病にかさるる人を見ては、その者のもちける鏡をとつて、かの功德水をもつてみがき、あらためて病人にみせければ、たちどころに、病療しかのみならず、はだへもうるはしく、齢もながしと云々。病人は喜びに堪へて、まひなひを引きけれども、あへて一銭もうけ侍らず。かくして四百余州をめぐりて、人民をたすけ侍る。されば、一切の仙人の長といへり。年月をへて失せければ、人々、かれが恩を謝せんために、かの八功德水の上にほこらを建て、神に祭りてうやまへりと云々。

(室町殿物語「から」)

(注1) 異朝||今の中国のこと。

(注2) ゆいて||行つて。

(注3) 八功德水||八つの優れた点がある水。

(注4) 杖にかけて||杖の両端に瓢箪を引っかけ、担いで。

(注5) 云々||とあることである。

(注6) まひなひ||贈り物。

(注7) ほこら||神を祭る小さな社。

1 あはれ は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 天道に心を入れて、おのおの祈誓申すばかりなり とあるが、人々が天に祈るしかない理由として、最も適切なものはどれか。

ア 病気を治さないと、八功德水を手に入れられないから。

イ 病気を治したいが、医術では全く効果がなかったから。

ウ 病気を治した者が、感謝の気持ちを伝えなかったから。

エ 病気を癒やすため、恵みの雨を降らせようとしたから。

3 心のままに湧きいだしけり の意味として、最も適切なものはどれか。

ア 自分の思った通りに八功德水を湧き出させた。

イ 病人のために各地で八功德水を湧き出させた。

ウ 天の意向で仕方なく八功德水を湧き出させた。

エ 万民の言うがままに八功德水を湧き出させた。

4 人民をたすけ侍る とあるが、負局は八功德水をどのように用いて病人を助けたのか。文末が「という方法。」になるように、三十字以内の現代語で書きなさい。ただし、文末の言葉は字数に含めない。

5 本文において、負局はどのように描かれているか。

ア 人々から受けた恩恵をいつまでも忘れず、感謝の気持ちを伝えるために、諸国を旅しながら恩返しをした。

イ 厳しい修行に励み、自分自身のためだけの究極の術を習得したことで、多くの仙人から長として敬われた。

ウ 各地を歩き病気で苦しむ万民のために尽力したことで、多くの人々から慕われ、後世に神として祭られた。

エ 誰よりも信心深いところがあり、神を敬うために様々な場所にほこらを建て、人々と共に祈りをささげた。

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。①～⑨は形式段落の番号である。

① 海や土と関わりながら生産者が生きる場がふるさとであり田舎だとすれば、海や土との関わりを絶って生きる消費者はふるさと難民であり、その場は程度の差こそあれ都会的だといえる。

② 生命のふるさとから離れて生きることの問題はどこにあるか。

③ それは「生命体としての自分」を自覚できなくなることにあるのではないだろうか。だからこそふるさと難民である都市住民は、リアリティ(生きる実感)と関係性(つながり)を渴望している。生きる実感とは、噛み砕いていえば、自分が生きものであるということ。生命のふるさとである海と土から自らを切り離してしまった都市住民が生きる実感を失っていくのも、当然のことではないだろうか。

④ 生命のふるさととは、言い換えれば自然だ。自然は生きている。

⑤ その自然の生命を自分に取り入れることで、私たちは生命を持続させる。私たちも死ねば最後は土や海に戻り、微生物に食べられる。

⑥ この生命の大きな輪の一端を担っているという無意識の感覚が、生きる実感なのだと思う。自然には意識はない。だから、動物や昆虫、植物にも意識がない。人間も言葉がなかった非言語の時代には、無意識の領域が大きく、「自分は自然で、自然は自分」という感覚を無意識に持っていただろう。ところが、人間が言語を獲得してから、Aの世界がBの世界を凌駕していった。その意識の世界一色になった現代でも、自然と共に生きる農家や漁師には無意識の領域が残っている。だから、彼らには「生きる実感」があっても自覚はないし、言葉にならない。

⑦ その一方で、「自然」という無意識から完全に離れて「人工」という意識の世界にだけ生きている私たちは、生きる実感が無い。ゆえに、自然という無意識の世界に触れ、自分の無意識の領域の扉が少し開き、生物としての自分を自覚すると「ない」ものが埋まるので、「ある」と意識でき、「生きる実感を感じた」という言葉になる。

⑧ もうひとつ、人間同士の関係性の希薄化も、人々がふるさとから離れてしまったことに大きく関係しているように思う。

⑨ かつて人間は、剥き出しの自然に日常生活をさらして生きていた。自然災害だけでなく、獣などの動物から身を守る必要もあった。ひとりでは到底生きていくことなどできなかったのだ。だからこそ人々は群れをつくり、コミュニティを形成し、互いの役割を果たし合いながら力を合わせて生きていた。そこには他者のために自分が必要とされているというわかりやすい依存関係が存在した。

⑩ ところが自然の脅威から守られた都市という要塞に暮らすようになると、この共存関係が崩れ、コミュニティは弱体化することになる。貨幣経済に組み込まれることで、問題解決は「相互扶助」ではなく、サービスの購入や税金という対価を支払った末の行政サービスという形に変わる。さらにインターネットの普及でますますコミュニティの存在意義は薄れ、解体へと向かっていく。

(高橋博之「都市と地方をかきまぜる『食べる通信』の奇跡」から)

(注1) 渴望＝心から強く望むこと。

(注2) 凌駕＝他のものを超えること。

1 生命のふるさとから離れて生きること とあるが、その説明として最も適切なものはどれか。

- ア 食事に地元の食材を取り入れず、暮らしていくこと。
- イ 田舎から遠い距離にある、都会で生活していくこと。
- ウ 自然と関わりを持たず、消費者として生活すること。
- エ 自然環境を破壊しながら、生産者として生きること。

2 この生命の大きな輪の一端を担っている とはどのようなことか。そのことについて説明した次の文の [ ] に当てはまるように、二十字以内で書きなさい。

人間もまた [ ]

させ、死ぬと自然に戻るといふ循環の一部であるということ。

3 本文中の [ A ]、[ B ] に入る語の組み合わせはどれか。

- ア A 自然 B 人工
- イ A 意識 B 無意識
- ウ A 動物 B 植物
- エ A 非言語 B 言語

4 人間同士の関係性の希薄化 について、次の(I)、(II)の問いに答えなさい。

(I) 人間同士の関係性は、かつてどのようなようにして築かれたと筆者は考えているか。四十字以内で書きなさい。

(II) 人間同士の関係性が希薄化したきっかけを筆者はどのように考えているか。最も適切なものを選びなさい。

- ア 各都市で貨幣を統一し都市住民の行動範囲を狭めたこと。
- イ インターネットの普及でコミュニティが弱体化したこと。
- ウ 経済の発展により人々の生活が便利で豊かになったこと。
- エ 自然の脅威が及ぶことのない都市で生活を始めたこと。

5 段落の関係について説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア ③段落は、①、②段落で提起した問題に対する筆者の見解を述べ、それ以降の論点を提示している。

イ ④段落は、②、③段落で提起した新たな問題に対して、筆者独自の視点から解決策を提示している。

ウ ⑥段落は、④、⑤段落の抽象的な内容を具体的に言い換えたうえで、補足的説明を付け加えている。

エ ⑦段落は、⑤、⑥段落で示された内容を一般化したうえで、新たな視点から別の問題を提起している。

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

「早朝、人目を避けて家から出かけていく母親に気付き、ひさしはひそかにその後をつけた。しかし、ついでに行くのに精一杯で母親を見失ってしまいそうになる。」

明け方の世界にひとり見放されて、何もかも滅茶滅茶めっちゃめっちゃになってゆきそうなのがたまらなくなり、自分でもおぼえず母親を呼んだ時には、心にもあらず涙声になっていた。

「どうしたの！」

という母親の声は、やさしくは響かなかった。むしろ叱りつけられたようにひさしには感じられた。

母親のおどろきあまりにも強くて、叱りつける声でもなければ鎮まらない程のものだということを理解するには、ひさしはまだ幼な過ぎた。しかし、子供が、寒い朝、しかも学校へ行く前にこんな所まで出て来てはいけなさと畑の中で白い息を吐き続ける母親に、ひさしは少しも靡なやかなかった。

ひさしの態度に母親は諦めたのか、自分のシヨールをとって、ひさし(注1)に頬被りさせると、ひさしの肩を抱えるようにして歩き出した。それから、行き先はお地藏様のお堂で、それは父親の病気が一日も早く癒なやまるように、もう何日も前から続けているお百度参りのためであることなどを、順々に話して聞かせた。

ア

ひさしはその時になって、この頃母親が肉も魚も食べなくなっていたのは、願(注2)かけのためだったということも初めて知らされた。これはお母さんがすればよいので、ひさしが真似まねをするのはよくないとも母親は言った。

畑を通り抜けた所に、その地藏堂はあった。民家が寄り合っている場所なので、気をつけていないと素通りしかねない入口である。

ひさしには、境内に入ってから先の広さが意外であった。

イ

母親は、お堂の縁側にひさしを坐まらせると、今度は自分(注2)が脱いだコートをまた頭から被らせて、からだに巻きつけてやった。

「達磨だまさんになって、待っておいで。」

そう言い置いてひさしの前を離れた。馴なれた足どりで境内の一隅に行くくと、草履ぞうりを脱いだ。白い足袋たびをとってその上に置いた。

何が祀まつつてあるのかはひさしには分らないのだが、かなり大きな石像の前に跪ひざまずいて一礼した母親は、それから何ことかを唱えながら、決まっているらしい石の道を一と廻めぐりした。一礼するとまた唱えごとをしては一と廻りする。

ウ

ひさしは初めのうち、一回、二回と数えていたが、そうして待つのは母親に対しても、また、母親が願(注3)いごとをしている何かに対しても悪いような気がしてきて、途中でやめた。母親の唱える声は、気のせいかしだいに強くなり、石の上を廻る速度も少しずつ早くなつていくように見える。ひさしは、母親の足の裏から、血が出ていはしないかと心配であった。

自分の起きる前に、母親は毎朝こうしていたのだと思うと、自分には分らないところで生きている時間の母親は他家の人のような気もするのであるが、いちばん気味悪いのは、母親をそうさせてしまふ何かで、その何だか知れないものに、母親が逆らうことも出来ずに連れ出されて行く妬ねたましさとさびしさは、ひさしにはちよつと類のないものであった。

エ

明け方の世界にひとり見放されたかという、来る時の心細さは、帰り道ではほとんどなくなっていた。しかし、家の者がまだ寝ているうちに家を抜け出して、他家の人のようになってお百度参りをす



5

Aさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人が下のグラフを見ながら、会話をしている。四人の会話とグラフを参考にして、「自分の意見を伝える」ということについてあなたの考えを書きなさい。

|     |   |
|-----|---|
| Aさん | 「自分の意見を相手に伝えるのは難しいよね。」  |
| Bさん | 「うん、そうだね。グラフを見ると、積極的に意見を伝える人と消極的な人は同じくらいの割合だね。私は自分の意見を積極的に言う方だな。普段から、相手に伝わる表現を使うようにしているんだ。」 |
| Cさん | 「私は自分の意見を伝えることには消極的な方かな。だから相手との人間関係を意識して、相手にどうしたら伝わりやすいか気を付けているよ。」                          |
| Dさん | 「グラフをよく見ると、『場合によると思う』という人もいるね。」   |
| Aさん | 「どのように自分の意見を伝えるかは人それぞれの考えがあるんだね。」   |

《注意》

- ・自分の考えとその理由を明確にして書くこと。
- ・自分の体験を踏まえて書くこと。
- ・国語解答用紙②に二百四十字以上三百字以内で書くこと。

